世界遺産物語

世界で最も美しい街
中世の香り漂うプラハ

プラハ城とヴルタヴァ川に架かるカレル橋 pixabay より

世界で最も美しい都市と言われるチェコの首都プラハには、中世の雰囲気に浸れる魅力的なところがたくさんある。ショートステイではとても満喫しきれない。プラハは「プラハ歴史地区」として世界で唯一、全市内が世界遺産に登録された。街のいたるところに尖塔（タワー）が点在し、空を突き刺すようにそびえ立っているため「百塔の街」と呼ばれ、同時にロマネスク、ゴシック、ルネッサンス、バロックなどの多彩な建築様式により「建築の博物館」とも言われている。千年以上の長い歴史と伝統を保ち、中世ヨーロッパの落ち着いた佇まいが街の隅々まで色濃く残っている。1度訪れたら、また来てみたいと虜にさせられる魅惑的な街である。

夕暮れ時のプラハ城とカレル橋　pixabay より

プラハのランドマークとして必ず訪れる2大観光スポットに、丘の上のプラハ城とヴルタヴァ（モルダウ）川にかかるカレル橋がある。プラハ城から市街を一望すれば、そこには石造のカレル橋が童話の世界のように幻想的に見える。日が落ちてからカレル橋を渡るとどこからともなくスメタナの名曲♪わが祖国（モルダウ）♪が聞こえてくるような錯覚に陥る。そしてプラハ城へ近づくと長い竿を持ちコートを羽織った男性が、夕方決まった時間になると、ガス灯のひとつひとつに点火している今時珍しい姿を見かけることもある。正に夢の中で中世を見ているようである。

国を揺さぶった「プラハの春」の中心の場となったヴァーツラフ広場は、今や多くの観光客で賑わっている。ヴァーツラフ広場の隣の旧市街広場にある旧市庁舎に設置された天文時計は、1410年に作られた世界最古の天文仕掛け時計で、毎正時にキリストの12使徒が姿を現す仕掛けが物珍しく、その時間になると多くの人々が時計塔の周囲に集まって来る。

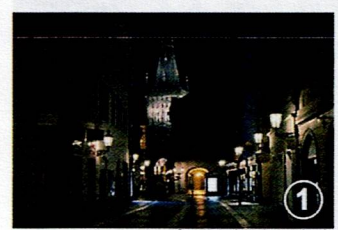
人気のある旧市庁舎の天文時計 pixabay より

プラハは、古くから文化と芸術が栄えた街でもある。中でも19世紀末に建てられた「プラハ国立歌劇場」は、チェコ国民が誇りに思う歴史的建物である。ドイツ人が建て、幾多の変遷を経てチェコ人のものとなった。名称も度々変わり、現名称の前には「スメタナ劇場」と呼ばれていた。チェコは、ドヴォルザークや、マーラー、スメタナら数多くの有名な作曲家を輩出し、彼らの名曲はもちろん、モーツァルトの「ドン・ジョバンニ」が初演されたのも、ここプラハ国立歌劇場である。

プラハ城からなだらかな坂道を降ると黄金小路と呼ばれる細い路地に出る。カラフルで小さな家々が何軒か建ち並んでいるが、その中の青い1軒は「変身」、「審判」、「城」の三部作を著したユダヤ系作家フランツ・カフカの家と言われている。カフカは市内中心部に住んでいたが、騒音に悩まされこの狭い家で執筆に勤しんでいた。

プラハは春夏秋冬いつ訪れても旅を楽しむことができる。プラハのロマンチックな余韻に浸ったのは、ある年の真冬に訪れた寒い時だった。雪が降り、市電がゆっくり市内を走行していた。夕暮れの人通りが少ない小雪の中を、若い女性がひとり傘をさして歩いていた。一瞬その光景が、フッと日本の歌♪雪の降る町を♪の幻想的なイメージを想い出させ感傷に浸ったことがある。

プラハは、空から見れば尖塔が揃い、街は中心部を除いて歩行者天国で派手な広告やネオンもなく、プラハ城から市内全体を眺めると立ち並ぶ建物が市の空間に見事に溶け込んでいる。ぜひ1度は訪れてみたい、気持ちが癒される魅力いっぱいの世界遺産都市である。



プラハ市内に灯るガス灯
公益財団法人ハイライフ研究所 HP より

プラハ城を背にカレル橋上で

チェコの伝統工芸品・ボヘミアンガラス

エッセイスト　近藤 節夫